

【閉会挨拶】

登壇者(敬称略) ※肩書はイベント 開催当時のもの	Corentin Segalen (Chair of the Group of Copenhagen(ナショナル・プラットフォームネットワーク))
---------------------------------	---

とても素晴らしい1日でした。さまざまなテーマが話題になりました。まず、財務大臣のご発言に感謝を申し上げたいと思います。

先ほども申し上げたように、日本は良い方向に向かっています。スポーツくじに強い規制を作るという方向に向かっていると思います。

ここで、違法賭博の問題についてお話ししたいと思います。世界の違法賭博はインターポールの方もおっしゃったように、信じられない金額で、毎年およそ3,000兆円の規模があり、日本だけで12兆円が毎年、違法オンライン賭博で使われています。

従って、日本にとっての損失は毎年、3,000～5,000億円発生していると言われています。この資金は直接、犯罪組織に流れています。これは何とかしなければいけないということに、ご同意いただけたと思います。

私は間もなくコペンハーゲン・グループの議長から退任しますが、AIとスポーツ不正操作の問題を担当することになります。日本もそのワーキンググループには参加されています。

ただ、AIは非常に困った状況を作り出しています。一種のゲームチェンジャーと言っていいでしょう。Guyさんのお話で、違法賭博の仲立ちをする「ミュール」の話がありました。Maestro事件では1,000人もいたということです。

そのミュールは、もう必要ありません。AIがあれば、1万人分の仕事をタダでしてくれます。

また、アスリートにコーチから電話がかかってきて、次の試合はどういう戦略で戦うのかを尋ねます。当然、アスリートはこんな戦い方をするつもりだと伝えます。ところが、実際に電話で話したのはコーチではなかった。誰かがベッティングをするための情報を引き出そうとして、コーチのふりをして電話をしている。そうした不正を防ぐためには全ての国とスポーツ団体、さらには合法的なベッティングの団体と協力し合って、犯罪者からスポーツを守らなければなりません。これが新しいチャレンジです。

日本はこうした不正との戦いをリードする国になれると思います。違法な事業をしている人たちは、国家に何の貢献もできません。アスリートを育てるわけでもないし、消費者も守りません。ただギャンブル依存の人からお金を盗んでいるだけです。つまり、そのお金があれば、スポーツそのものに、また不正の予防やスポーツ倫理の教育に投資することができます。これはスポーツだけの問題ではありません。これは犯罪ですが、制度が異なると、その犯罪を国境で止めることはできません。

ですから、2026年に日本がマコリン条約を締結することを期待しております。そして、すぐに条約を批准していただけることも期待しております。世界の国々が日本を必要としています。

日本もこの世界の戦いに参加する必要があると思います。

違法ベッティングが増えていくと、犯罪組織も一緒に成長していきます。犯罪組織が成長すると、こういった不正操作も増えます。コペンハーゲン・グループの 1 年目、2017 年から全てのアラートを記録しています。1 年目の 11 月に、既に今までなかったほどのたくさんのアラートがありました。その 11 月だけで 1,000 のアラートがありました。日本が積極的に、このグローバルな協力に参加していただきたいと思っておりますし、それができると信じております。